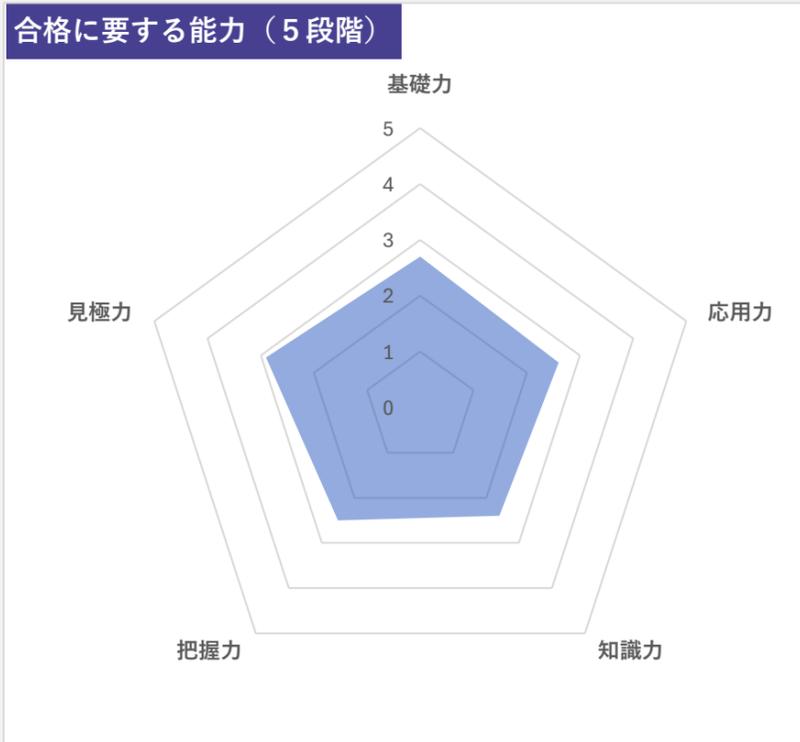


総合分析

試験区分	一般（後期）
------	--------

制限時間	75分（理科2科150分）	大問数	全5問
------	---------------	-----	-----



出題分野

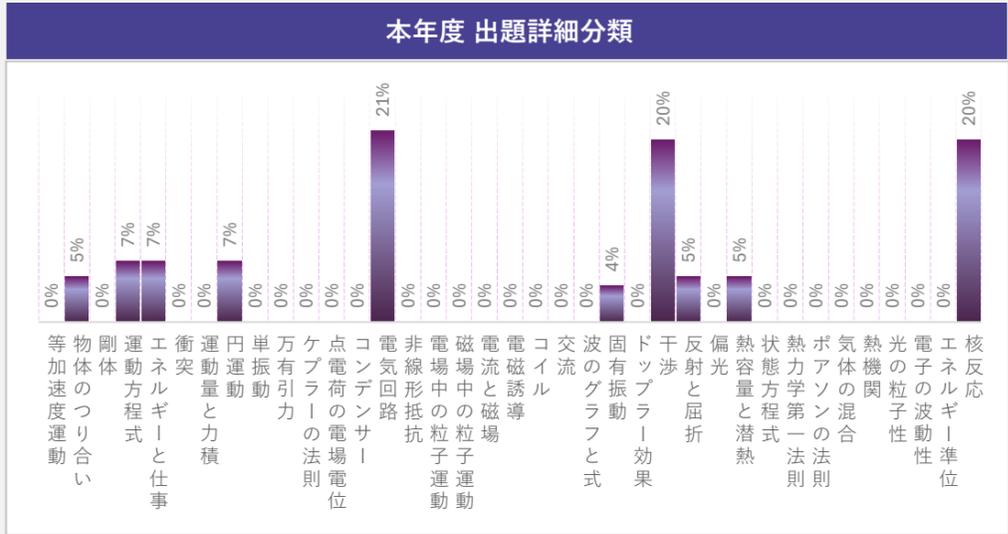
力学	25%
電磁気学	21%
波動	29%
熱力学	5%
原子物理	20%

本年度出題テーマ一覧

第1問	小問集合
第2問	円軌道拘束された小物体の運動
第3問	電気振動
第4問	ヤングの干渉実験
第5問	放射性崩壊

本年度 解答形式

答えのみ記述	80%
穴埋め記述	...



特殊問題の有無	近似計算なし	グラフあり
正誤問題なし	理由記述あり	数値計算あり

特記事項 会話文，グラフ描画，放射線に関する知識問題，説明問題が出題された

総合評価

難度	2.4	最難を5とする問題自体の難度	やや易しい	一次合格に必要な正答率（予想）	64%
分量	62分	完答に要する時間（制限時間は75分）	やや少ない	標準	

入試の特徴と対策 ▶ 概ね法則の運用に関する応用的な出題である。物理計算への慣れが必要となる。

入試から見る大学が求める学生像 後期試験としてはやや高めの難度ではあるが、私立医学部の試験を総じて考えれば標準的な出題であり、分量はかなり少ない。しかし、単純な演習量では対応できない問題も一部にみられる。第4問では波の位相の進みや遅れに関する基礎的な理解が、第5問では、放射性崩壊に関して幅広い知識が問われていた。高得点をとるためには堅実な姿勢で物理に望まなければならない。相変わらず知識問題が多いのも含めて、おそらく臨床医の資質としてこれを問うているのだろう。